

各調査海域での調査終了後、保管されているごみを表 III. 1-1 (1), (2)に示す「平成 21・22 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査総合検討会報告書（環境省（2011）」に準じて分類してそれぞれの個数を記録し、秤とスケールを用いて重量及び容積を計測した。

また、飲料缶については賞味期限年月日を記録した。なお、重量及び容積が全体の 50%以上を占める大型物品に関しては、この後の統計処理データからは除外した。

表 III.1-1 (1) 分類リスト

大分類	中分類	品目分類	コード	
1.プラスチック類	①袋類	食品用・包装用(食品の包装・容器)	1101	
		スーパー・コンビニの袋	1102	
		お菓子の袋	1103	
		6パックホルダー	1104	
		農薬・肥料袋	1105	
		その他の袋	1106	
		②プラボトル	飲料用(ペットボトル) 全数を本社へ送付	1201
			飲料用(ペットボトル以外)	1202
			洗剤・漂白剤	1203
			市販薬品(農薬含む)	1204
	化粧品容器		1205	
	食品用(マヨネーズ・醤油等)		1206	
	その他のプラボトル		1207	
	③容器類		カップ、食器	1301
			食品の容器	1302
			食品トレイ	1303
		小型調味料容器(お弁当用 醤油・ソース容器)	1304	
		ふた・キャップ	1305	
		その他の容器類	1306	
		④ひも類・シート類	ひも・ロープ	1401
			テープ(荷造りバンド、ビニールテープ)	1403
			シート状プラスチック(ブルーシート)	1404
			⑤雑貨類	ストロー
	タバコのフィルター			1502
	ライター(全数を本社へ送付)			1503
	おもちゃ			1504
	文房具			1505
	苗木ポット			1506
	生活雑貨類(ハブラシ、スプーン等)			1507
	その他の雑貨類	1508		
	⑥漁具	釣り糸		1601
		釣りのルアー・浮き		1602
		フイ	1603	
		釣りの蛍光棒(ケミホタル)	1604	
		漁網	1605	
		かご漁具	1606	
		カキ養殖用パイプ	1607	
		カキ養殖用コード	1608	
		釣りえさ袋・容器	1609	
		その他の漁具	1610	
	⑦破片類	アナゴ筒(フタ)	1611	
		アナゴ筒(筒)	1612	
		シートや袋の破片	1701	
		プラスチックの破片	1703	
		漁具の破片	1704	
		⑧その他具体的に	燃え殻	1901
			コード配線類	1902
			薬きょう(猟銃の弾丸の殻)	1903
			ウレタン	1904
			農業資材(ビニールハウスのパッカー等)	1905
不明	1906			
2.ゴム類	①ボール			2100
	②風船			2200
	③ゴム手袋			2300
	④輪ゴム			2400
	⑤ゴムの破片		2500	
	⑥その他具体的に	ゴムサンダル 複合素材サンダル くつ・靴底	2601 2602 2603	
3.発泡スチロール類	①容器・包装等	食品トレイ	3101	
		飲料用カップ	3102	
		弁当・ラーメン等容器	3103	
		梱包資材	3104	
		②フイ	3200	
③発泡スチロールの破片		3300		
	④魚箱(トロ箱)	3400		
	⑤その他具体的に	3500		
	4.紙類	①容器類	紙コップ	4101
飲料用紙バック			4102	
紙皿			4103	
紙袋			4201	
タバコのパッケージ(フィルム、銀紙を含む)			4202	
②包装		菓子類包装紙	4203	
		段ボール(箱、板等)	4204	
		ボール紙箱	4205	
		③花火の筒	4300	
		④紙片等	新聞、雑誌、広告 ティッシュ、鼻紙 紙片	4401 4402 4403
⑤その他具体的に		タバコの吸殻	4501	
		葉巻などの吸い口	4502	

出典：平成 21・22 年度漂流・漂着ごみに係る国内削減方策モデル調査総合検討会報告書（環境省(2011)）

表 III. 1-1 (2) 分類リスト

大分類	中分類	品目分類	コード	
5.布類	①衣服類		5100	
	②軍手		5200	
	③布片		5300	
	④糸、毛糸		5400	
	⑤布ひも		5500	
	⑥その他具体的に	毛布・カーペット 覆い(シート類)	5601 5602	
6.ガラス・陶磁器類	①ガラス	飲料用容器	6101	
		食品用容器	6102	
		化粧品容器	6103	
		市販薬品(農薬含む)容器	6104	
		食器(コップ、ガラス皿等)	6105	
		蛍光灯(金属部のみも含む)	6106	
		電球(金属部のみも含む)	6107	
	②陶磁器類	食器 タイル・レンガ	6201 6202	
	③ガラス破片		6300	
	④陶磁器類破片		6400	
⑤その他具体的に		6500		
7.金属類	①缶	アルミ製飲料用缶	7101	
		スチール製飲料用缶	7102	
		食品用缶	7103	
		スプレー缶(カセットボンベを含む)	7104	
		潤滑油缶・ポトル	7105	
		ドラム缶	7106	
		その他の缶	7107	
	②釣り用品	釣り針(糸のついたものを含む)	7201	
		おもり	7202	
		その他の釣り用品	7203	
	③雑貨類	ふた・キャップ	7301	
		プルタブ	7302	
		針金	7303	
		釘(くぎ)	7304	
	④金属片	電池	7305	
金属片		7401		
アルミホイル・アルミ箔		7402		
⑤その他	コード配線類	7501		
8.その他の人工物	①木類	木材・木片(角材・板)	8101	
		花火(手持ち花火)	8102	
		割り箸	8103	
		つま楊枝	8104	
		マッチ	8105	
		木炭(炭)	8106	
		物流用パレット	8107	
		梱包用木箱	8108	
		その他具体的に	8109	
		②粗大ゴミ(具体的に)	家電製品・家具	8201
			バッテリー	8202
			自転車・バイク	8203
			タイヤ	8204
	自動車・部品(タイヤ・バッテリー以外)		8205	
	その他具体的に		8206	
	③オイルボール		8300	
	④建築資材(主にコンクリート、鉄筋等)		8400	
	⑤医療系廃棄物	注射器	8501	
		バイアル	8502	
		アンプル	8503	
		点滴バック	8504	
		錠剤バック	8505	
		点眼・点鼻薬容器	8506	
		コンドーム	8507	
		タンポンのアプリケーター	8508	
		紙おむつ	8509	
		その他の医療系廃棄物	8510	
⑥その他具体的に		革製品 船(FRP等材質を記入)	8601 8602	

掃海面積算出のため、操業に用いた漁具の種類と大きさを記録した（表 III. 1-2）。

表 III. 1-2 海底ごみ現地調査に用いた底曳き網の諸元に関する記録項目

項目	記録内容
網の種類・構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・網の各部分のサイズ</li> <li>・手繰り第1種：網口の長さ</li> <li>・手繰り第2種：袖先間隔又はビーム長さ</li> <li>・手繰り第3種：桁の数、桁の幅、爪の本数</li> </ul>

表 III. 1-3 に、本調査に用いた底曳き網の諸元と曳網距離を示した。

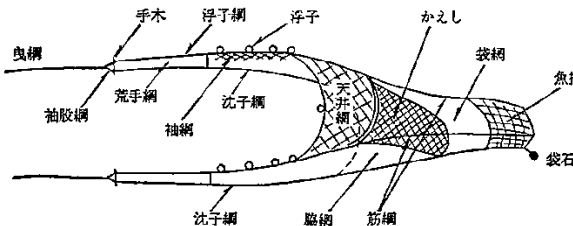
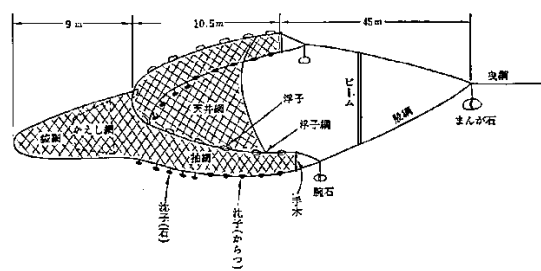
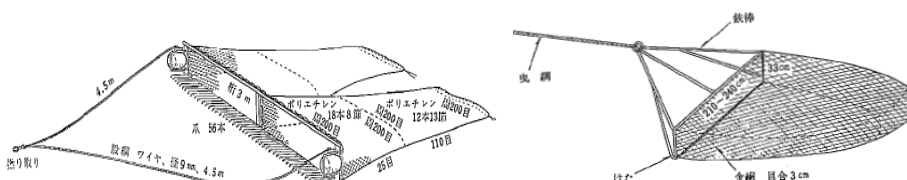
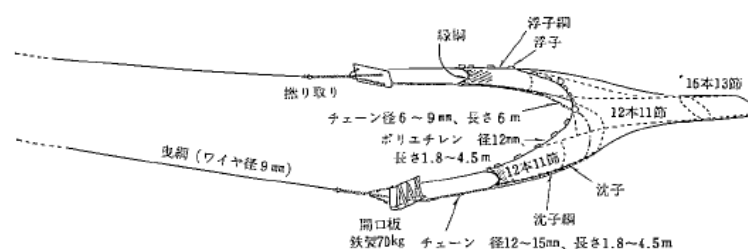
表 III. 1-3 使用漁具の種類及びサイズ

湾名	調査海域	協力漁協	漁具の種類	網口の長さ × 桁数 (m)	網口の高さ (m)	(桁の有無)	爪・櫛の本数	爪・櫛の長さ (cm)	曳網距離 (km)
陸奥湾	脇野沢	脇野沢村漁協	手繰り第3種	1.80 × 1	0.4	櫛有、爪なし	櫛数:9	櫛長:40	2,101.0
	陸奥	むつ市漁協	手繰り第3種	1.90 × 1	0.11	櫛有、爪なし	櫛数:17	櫛長:50	280.1
	野辺地	野辺地漁協	手繰り第3種	1.53 × 1	0.3	櫛有、爪なし	櫛数:7	櫛長:30	252.0
富山湾	魚津	魚津漁協	手繰り第1種	7.00 × 1	3.5	-	-	-	14.5
	岩瀬	とやま市漁協	手繰り第1種	7.00 × 1	3	-	-	-	126.0
	新湊	新湊漁協	手繰り第1種	7.00 × 1	3	-	-	-	201.5
	七尾	石川県漁協ななか支所	手繰り第3種	2.20 × 1	0.4	爪なし	-	-	215.0
若狭湾	小浜	小浜漁協	手繰り第1種	4.65 × 1	-	-	-	-	279.9
	大島(沖)	小浜及び大島漁協	手繰り第1種	6.00 × 1	-	-	-	-	248.1
	青戸入江	大島漁協	手繰り第3種	2.20 × 1	0.4	爪なし	-	-	483.4
	舞鶴	京都府漁協舞鶴支所	手繰り第3種	1.65 × 1	0.3	爪なし	-	-	273.7
	経ヶ岬沖		手繰り第1種	6.00 × 1	-	-	-	-	35.1
	伊根	京都府漁協伊根支所	手繰り第3種	1.88 × 1	0.39	爪なし	-	-	124.6
	宮津(宮津湾)	京都府漁協宮津支所	手繰り第3種	2.68 × 1	0.29	爪なし	-	-	119.3
宮津(栗田湾)	手繰り第3種		2.50 × 1	0.47	爪なし	-	-	157.2	

※ 本業務では沿岸海域を対象とするため、調査海域に接する陸地の地名を調査海域名称として使用した。ただし比較的沖合で操業する調査海域のみ「沖」または「(沖)」表記とした。

小型底曳き網漁業の漁法別の漁具の種類と性状を表 III. 1-4 に示した。各海域で使用した底曳き網の諸元と曳網距離から掃海面積を求め、一定面積当たりの海底ごみの量の算出に適用した。

表 III.1-4 小型底曳き網漁業の漁法毎の漁具の種類と性状

漁法	概要
手繰第1種	<p>ビーム（はり）、桁（けた）及び開口板等の網口開口装置を有しない底曳網を使用して行う手繰網漁業である。</p>  <p>手繰第1種（機船手繰網の例）</p>
手繰第2種	<p>網口にビーム（はり）を有する網具を使用して行う手繰網漁業である。ビームは、1本の竹、木又は金属等で作られた棒であり、網口を開く目的で使用する。手繰第1種漁業が主として魚類を対象としたものであるのに対して、手繰第2種漁業は主としてエビ類を対象としたものである。</p>  <p>手繰第2種（エビこぎ網の例）</p>
手繰第3種	<p>桁（けた）を有する網具を使用して行う手繰漁業である。桁とは、コの字型又はコの字型をした鉄製の枠をいい、海底を掻きながら底棲の貝類等を捕獲する目的のもので、多くの場合爪を有している。</p>  <p>手繰第3種（爪ありの例）</p> <p>手繰第3種（爪なしの例）</p>
板曳網	<p>網口に開口板を有する漁具を使用した漁業である。漁獲効率がよいが、他種漁業との調整や水産資源の保護上指定された海域以外は禁止されている。</p>  <p>板曳網</p>

出典：金田禎之（2005）日本漁具・漁法図説（増補二訂版）、成山堂書店

### III. 1. 2 調査期間と実施隻日数

調査の期間及び実施隻日を表 III. 1-5 に示した。調査は平成 29 年 1 月末から 3 月末までの 3 ヶ月間にわたって行われた。実施隻日は、予定隻日数 521 隻日に対して、延べ 542 隻日の実施となった。

表 III. 1-5 調査期間と実施隻日数

※隻日は延べ隻数を示す

湾名	調査海域	協力漁協	操業状況	隻日数実績			ごみ回収 ・計測状況
				底曳き	ナマコ曳	合計	
陸奥湾	脇野沢	脇野沢村漁協	1/24,25,26,29 30隻×4日	-	120	120	2/15
	陸奥	むつ市漁協	3/21-3/23	-	54	54	3/23
	野辺地	野辺地漁協	2/4-3/16 18隻×5日	-	90	90	2/22及び 3/17
富山湾	魚津	魚津漁協	2/22-3/4	10	-	10	3/17
	岩瀬	とやま市漁協	2/22-3/6	24	-	24	3/17
	新湊	新湊漁協	2/24-3/6	24	-	24	3/9
	七尾	石川県漁協ななか支所	2/24-3/18	-	30	30	3/17
若狭湾	小浜	小浜漁協	2/10-3/19	-	20	30	3/23
	大島(沖)		2/26-3/6	10	-		3/23
	大島(沖)	大島漁協	3/1-3/13	10	-	60	3/16
	青戸入江		2/26-3/13	-	50		3/16
	舞鶴	京都府漁協舞鶴支所	3/1-3/22	-	29	30	3/24
	経ヶ岬沖		3/24	1	-		3/24
	伊根	京都府漁協伊根支所	3/1-3/18	-	30	30	3/24
	宮津(宮津湾)	京都府漁協宮津支所	3/4-3/18	-	20	40	3/24
	宮津(栗田湾)		3/4-3/24	-	20		3/24
合計				79	463	542	

脚注：表 III. 1-3 参照

### III.1.3 ごみの分類・分析

海底ごみの分析対象は、前年度と同様に「平成 21・22 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査総合検討会報告書（環境省（2011）」）に準じて、基本的に人工物に限り、海藻や流木等の自然物は除いた。

回収された海底ごみについては、表 III.1-1 に示す大分類に従い分類し、それぞれの個数、重量（湿重量）及び容積を計測した（写真 III-1.1）。計測時には各ごみを品目レベルで分類し、それぞれについて記録した。

容積計測は、基本的には容積が明確になっているカゴ、バット等の容器を用いて行った。容器に入らない大型のごみは、直接スケールで寸法を計測して算出した。

#### ◎計測例

箱型のごみ           : 縦、横、高さを実測し容積を計算

大型のワイヤー類 : ワイヤー径、長さを実測し容積を計算

ごみ回収



漁協でのごみ回収・保管状況

分類



種類ごとの分類

計測



試料計測

重量計測

大型重量計測



採寸

容積計測

容積計測

写真 III-1.1 海底ごみの回収・分類・計測状況



### III.1.4 結果のとりまとめ方法

現地調査結果については、海底ごみの総量を集計する基礎材料として、密度・場所等の定量的な把握を目指し、表 III.1-6 のとおり整理する。

表 III.1-6 結果のとりまとめ方針

項目	整理方針
曳網ライン	・GPS ロガーに記録されたデータ、野帳に記入されている曳網開始時間、揚網開始時間から、曳網ラインの位置情報を抽出し地図上に図示する。
曳網面積	・曳網ラインの長さ、網の開口幅から、掃海面積を計算する。
海底ごみの密度	・記録された分類区分毎に、個数、容積、重量の結果、掃海面積から、海底ごみの密度を算出する。 ・ <u>極端に容積、重量が大きいごみについては、計算結果に与える影響が大きいため、除外する。除外の基準については環境省担当官の了解を得る。</u>
図表作成	・結果は地図上に分かりやすく表現する。

## III. 2. 海底ごみ現地調査結果

### III. 2. 1 調査海域

調査海域は、陸奥湾、富山湾及び若狭湾の隣接する 5 府県の水産部局及び 3 湾内の各地区の漁業協同組合との調整によって選定し、最終的に陸奥湾内の 3 調査海域、富山湾内の 4 調査海域、若狭湾内の 8 海域、計 15 調査海域において調査を実施した。調査実施状況について表 III. 2-1 に示した。

表 III. 2-1 海底ごみ調査実施状況

地域			分類	操業状況			海底ごみ計測結果		
				操業数実績 (隻日)	総曳網距離 (m)	網口サイズ (m)	掃海面積 (km <sup>2</sup> )	個数 (個)	重量 (kg)
湾名	調査海域	協力漁協							
陸奥湾	脇野沢	脇野沢村漁協	120	2,101,045	1.80	3.78	204	141	1,611
	陸奥	むつ市漁協	54	280,080	1.90	0.53	184	101	702
	野辺地	野辺地漁協	90	252,000	1.53	0.39	170	119	3,759
富山湾	魚津	魚津漁協	10	14,502	7.00	0.10	40	3	20
	岩瀬	とやま市漁協	24	126,000	7.00	0.88	363	12	462
	新湊	新湊漁協	24	201,515	7.00	1.41	314	51	351
	七尾	石川県漁協ななか支所	30	214,978	2.20	0.47	659	93	1,102
若狭湾	小浜	小浜漁協	20	279,938	4.65	1.30	224	51	432
	大島(沖)	小浜及び大島漁協	20	248,075	6.00	1.49	542	83	1,336
	青戸入江	大島漁協	50	483,406	2.20	1.06	473	56	709
	舞鶴	京都府漁協舞鶴支所	29	273,726	1.65	0.45	666	71	937
	経ヶ岬沖		1	35,074	6.00	0.21	28	10	332
	伊根	京都府漁協伊根支所	30	124,641	1.88	0.23	297	55	1,216
	宮津(宮津湾)	京都府漁協宮津支所	20	119,269	2.68	0.32	907	63	835
	宮津(栗田湾)		20	157,235	2.50	0.39	302	31	257

脚注：表 III. 2-3 参照

### III. 2. 2 現地調査手法

#### (1) 海底ごみの回収と計測

調査を実施した15調査海域について、III. 1. 3節に従って集められた海底ごみを分別し、その量(個数、重量、容積)を計測した(写真 III. 2-1)。



写真 III. 2-1 海底ごみ分別の様子

## (2) 漁具の形状


海底ごみ調査における調査海域ごとの使用漁具の一覧を表 III. 2-2 に示した。調査を実施した 15 海域のうち、桁を有する漁具（手繰り第 3 種）で操業している調査海域は 9 調査海域であり、その他の 6 海域の操業は手繰り第 1 種であった。漁具の種別の概要及び網口の長さの確認箇所を図 III. 2-1 に、使用漁具の写真を写真 III. 2-2 (1)～(5) に示す。

今回ごみ回収で使用された漁具は、手繰り第 1 種と手繰り第 3 種であった。本調査で使用された手繰り第 3 種は、なまこ桁網といわれるもので、開口部に金枠がついているが、爪はついていない。中には、海底をたたいて起こすための櫛やチェーンがついているものもあるが、主に海底表面を滑動する漁具であり、貝桁網のように海底を掘り起こすものではない。このため、回収効率は手繰り第 1 種と同様であると仮定した。

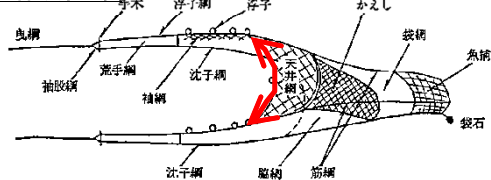
表 III. 2-2 使用漁具表

湾名	調査海域	協力漁協	漁具の種類	網口の長さ (m) × 桁数	網口の高さ (m)	(桁の有無)	爪・櫛の本数	爪・櫛の長さ (cm)	曳網距離 (km)
陸奥湾	脇野沢	脇野沢村漁協	手繰り第3種	1.80 × 1	0.4	櫛有、爪なし	櫛数:9	櫛長:40	2,101.0
	陸奥	むつ市漁協	手繰り第3種	1.90 × 1	0.11	櫛有、爪なし	櫛数:17	櫛長:50	280.1
	野辺地	野辺地漁協	手繰り第3種	1.53 × 1	0.3	櫛有、爪なし	櫛数:7	櫛長:30	252.0
富山湾	魚津	魚津漁協	手繰り第1種	7.00 × 1	3.5	-	-	-	14.5
	岩瀬	とやま市漁協	手繰り第1種	7.00 × 1	3	-	-	-	126.0
	新湊	新湊漁協	手繰り第1種	7.00 × 1	3	-	-	-	201.5
	七尾	石川県漁協ななか支所	手繰り第3種	2.20 × 1	0.4	爪なし	-	-	215.0
若狭湾	小浜	小浜漁協	手繰り第1種	4.65 × 1	-	-	-	-	279.9
	大島(沖)	小浜及び大島漁協	手繰り第1種	6.00 × 1	-	-	-	-	248.1
	青戸入江	大島漁協	手繰り第3種	2.20 × 1	0.4	爪なし	-	-	483.4
	舞鶴	京都府漁協舞鶴支所	手繰り第3種	1.65 × 1	0.3	爪なし	-	-	273.7
	経ヶ岬沖	京都府漁協舞鶴支所	手繰り第1種	6.00 × 1	-	-	-	-	35.1
	伊根	京都府漁協伊根支所	手繰り第3種	1.88 × 1	0.39	爪なし	-	-	124.6
	宮津(宮津湾)	京都府漁協宮津支所	手繰り第3種	2.68 × 1	0.29	爪なし	-	-	119.3
	宮津(栗田湾)	京都府漁協宮津支所	手繰り第3種	2.50 × 1	0.47	爪なし	-	-	157.2

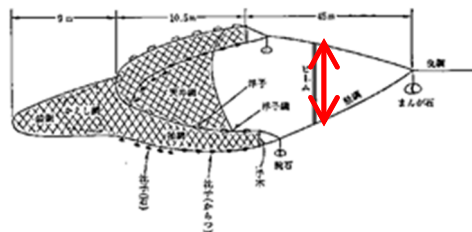
脚注：表 III. 2-3 参照

◎網口の長さの確認箇所 (  で表記)

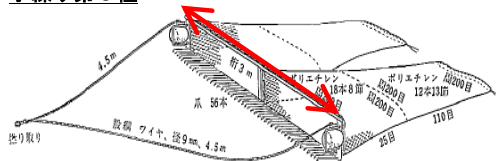
手繰り第1種



手繰り第2種(参考：本調査では使用されていない)



手繰り第3種



出典：金田禎之（2005）日本漁具・漁法図説（増補二訂版）、成山堂書店

図 III. 2-1 網口の長さの確認箇所

陸奥湾脇野沢  
手操第3種 ナマコ曳網 (1.8m×0.4m)



写真 III. 2-2(1) 使用した網の外観と寸法

陸奥湾野辺地

手操第3種 ナマコ曳網 (1.53m×0.3m)



富山湾魚津

手操第1種 (7m×3.5m)

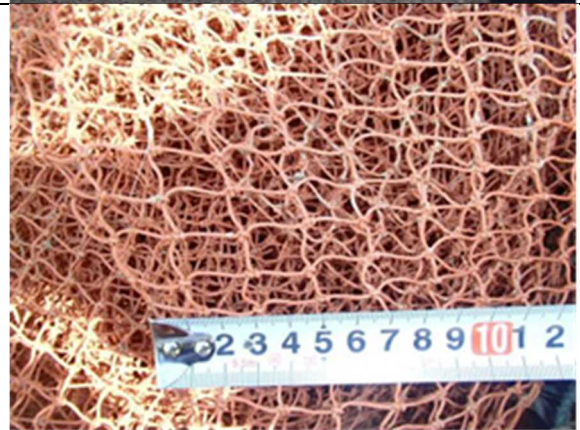
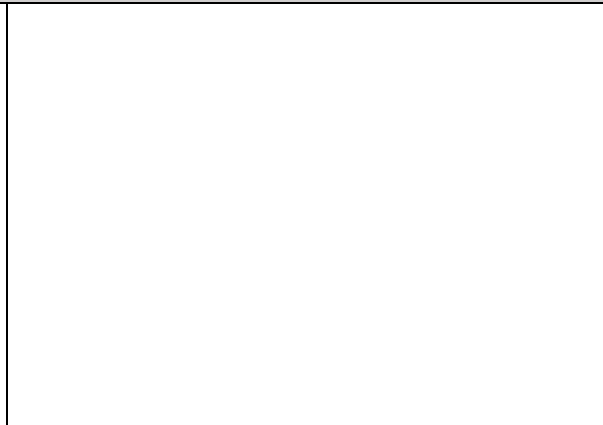


写真 III.2-2 (2) 使用した網の外観と寸法

富山湾岩瀬 (富山市漁協)  
手操第1種 (7m×3m)



富山湾七尾 (石川県漁協ななか支所)  
手操第3種 (2.2m×0.4m)



写真 III. 2-2 (3) 使用した網の外観と寸法

富山湾新湊  
手操第1種 (7m×3m)



若狭湾青戸入江  
手操第3種 (ナマコ網) (2.2m×0.4m)



若狭湾大島  
手操第1種 (6m×0.33m)



写真 III.2-2 (4) 使用した網の外観と寸法



小浜漁協  
手操第1種 ナマコ曳網 (4.65m)



小浜漁協  
手操第1種 手操第1種 (6m)



写真 III.2-2 (5) 使用した網の外観と寸法

### III.2.3 現地調査結果

海底ごみの調査結果について「(1)海底ごみ調査結果概要」に概要を示した。海域毎に採取した海底ごみの状況について、「(2)海底ごみの回収状況」に状況写真を、「(3)大型ごみについて」に特に大きい海底ごみを示した。回収した海底ごみの計測実数について「(4) 回収した海底ごみの計測実数(個数、重量、密度)」に示し、海域毎に密度換算した結果について「(5)掃海面積1km<sup>2</sup>あたりの密度」に示した。さらに、「(6) 飲料缶の賞味期限から試算した飲料缶の残存期間」及び「(7) スチール缶とアルミ缶の残存期間」を示した。

(1) 海底ごみ調査結果概要

海底ごみ調査結果概要を表 III. 2-3 に示す。

ごみの回収にあたっては、海域ごとに漁具、操業隻数が異なり、掃海面積に大きな差があり、努力量が異なる。特に、脇野沢については、操業隻数が 120 隻日で総掃海面積が 3.78km<sup>2</sup> と他の海域に比べて 3~10 倍程度の努力量であった。このため、最後の欄に単位掃海面積あたりの密度に規格化した。

個数密度では、若狭湾で高く、特に宮津(宮津湾)海域、舞鶴海域、伊根海域で高い結果であった。また、富山湾の七尾海域も個数密度が高い。宮津(宮津湾)海域、舞鶴海域、伊根海域、七尾海域の 4 海域が 1km<sup>2</sup> あたり 1,000 個以上の個数密度であった。

重量密度では、最も重量の密度が高かったのは野辺地海域であり、その値は 307.7kg/km<sup>2</sup> であった。次いで、伊根海域、七尾海域、宮津(宮津湾)海域、舞鶴海域の個数密度の高い 4 海域で重量密度が高かった。野辺地の重量密度はプラスチック類が高く、ほとんどが漁具であった。伊根海域と七尾海域は、金属の重量密度が高く、宮津(宮津湾)海域と舞鶴海域は野辺地と同様にプラスチック類の重量密度が高かった。

容積密度では、重量密度と同様に野辺地海域、伊根海域、七尾海域、宮津(宮津湾)海域、舞鶴海域で大きい傾向であり、容積の嵩張る漁具が多い野辺地海域で 9,749.3L/km<sup>2</sup> と最も高い傾向であった。

陸奥湾は他の海域に比べ、個数密度のわりに重量密度や容積密度が高い傾向であった。これは、比較的サイズが大きく、重量の重い漁具の海底ごみが多かった結果によるものと思われる。

表 III. 2-3 海底ごみ調査結果概要

地域			分類	操業状況			海底ごみ計測結果			海底ごみ密度		
				操業数実績(隻日)	総曳網距離(m)	網口サイズ(m)	掃海面積(km <sup>2</sup> )	個数(個)	重量(kg)	容積(L)	個数(個/km <sup>2</sup> )	重量(kg/km <sup>2</sup> )
湾名	調査海域	協力漁協										
陸奥湾	脇野沢	脇野沢村漁協	120	2,101,045	1.80	3.78	204	140.7	1,611.2	54	37.2	426.0
	陸奥	むつ市漁協	54	280,080	1.90	0.53	184	100.6	702.1	346	189.0	1,319.4
	野辺地	野辺地漁協	90	252,000	1.53	0.39	170	118.6	3,758.9	441	307.7	9,749.3
富山湾	魚津	魚津漁協	10	14,502	7.00	0.10	40	3.4	20.4	394	33.8	201.0
	岩瀬	とやま市漁協	24	126,000	7.00	0.88	363	12.0	461.9	412	13.6	523.7
	新湊	新湊漁協	24	201,515	7.00	1.41	314	50.9	350.8	223	36.1	248.7
	七尾	石川県漁協ななか支所	30	214,978	2.20	0.47	659	93.3	1,101.7	1,393	197.4	2,329.5
若狭湾	小浜	小浜漁協	20	279,938	4.65	1.30	224	50.6	431.9	172	38.8	331.8
	大島(沖)	小浜及び大島漁協	20	248,075	6.00	1.49	542	82.5	1,336.4	364	55.4	897.9
	青戸入江	大島漁協	50	483,406	2.20	1.06	473	55.8	708.5	445	52.4	666.2
	舞鶴	京都府漁協舞鶴支所	29	273,726	1.65	0.45	666	71.4	937.0	1,475	158.0	2,074.7
	経ヶ岬沖		1	35,074	6.00	0.21	28	10.1	331.7	133	48.2	1,576.2
	伊根	京都府漁協伊根支所	30	124,641	1.88	0.23	297	55.2	1,216.0	1,267	235.7	5,189.3
	宮津(宮津湾)	京都府漁協宮津支所	20	119,269	2.68	0.32	907	62.8	834.7	2,838	196.6	2,611.3
	宮津(栗田湾)		20	157,235	2.50	0.39	302	31.2	257.0	768	79.4	653.9

脚注：表 III. 2-3 参照

(2) 海底ごみの回収状況

海域毎に採取した海底ごみの全景及び種類別の状況写真を写真 III. 2-3～写真 III. 2-15 に、海域毎の海底ごみの総個数、総重量、総容量を記載した。

陸奥湾脇野沢(調査海域合計：総個数 204, 総重量 140. 7kg, 総容積 1, 611. 2L)

		
海底ごみ全景	袋類	ゴム類
		
漁具	漁具	漁具(うちシンカー40. 7kg)
		
缶類	ガラス瓶	プラボトル
		
アンカー	廃タイヤ	自然ごみ

写真 III. 2-3 陸奥湾脇野沢海域の海底ごみの回収状況